

【ハンズオンセミナー3 募集要項】

セッション	ハンズオンセミナー3
日時	8月5日(土) 9:10-11:10 (120分)
会場	名古屋国際会議場 G会場 (3F 231)
テーマ	がん薬物療法のケーススタディー
対象	皮膚悪性腫瘍治療を志す若手医師
内容	<p>皮膚悪性腫瘍の薬物療法はここ数年で大きく進歩し、我々は様々な治療選択肢を得た。特に免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬は、進行期皮膚悪性腫瘍治療のブレイクスルーとなり、これまで治すことのできなかつた症例を治すことが出来るようになった。しかし同時にこれまで経験したことのない副作用に悩まされることも多く、臨床の様々な局面での治療選択は難しさを増している。</p> <p>本ハンズオンセミナーでは、4名のエキスパートの先生を演者とし、前半2名と後半2名に分かれてご講演いただく。前半部分では、演者が実際に経験した治療選択に悩む症例を数例ずつ提示していただき、ディスカッサントと一緒に治療の選択を考える。後半部分では、免疫チェックポイント阻害薬使用中に起こる免疫関連有害事象(irAE)について、2名の演者にそのメカニズムなどの研究的側面からご講演いただき、irAEについてのより深い理解とエビデンスに基づいた対処法を学ぶ。</p> <p>本ハンズオンセミナーにご応募いただいた先生には、前半部分のディスカッサントとしてご参加いただき、提示された症例の治療選択肢を考え、回答していただく。皮膚癌薬物療法のエキスパートである演者の症例を迫体験することで、実臨床に役立つコツ、ヒントをつかんでほしい。</p>
募集人数	10名
座長(敬称略)	茂木 精一郎(群馬大学 皮膚科) 谷崎 英昭(関西医科大学 皮膚科)
演者(敬称略)	緒方 大(国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科) 伊東 孝通(九州大学 皮膚科) 岩間 信太郎(名古屋大学 糖尿病・内分泌内科) 塚本 博文(京都大学がん免疫総合研究センター がん免疫治療臨床免疫学部門)